

社会科学習指導案

指導者 福永 佳栄(T1)

栄養教諭 三上 真由美(T2)

1 日時 平成28年9月21日(水)第5校時

2 学年 第5学年3組 33名

3 単元 これからの食料生産とわたしたち

—「地球産」の食べ物を選ぶ「一人の消費者」—

4 学習指導要領

(2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにする。

ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運送などの働き

5 単元について

○ 我が国における食料事情には問題が山積している。食料生産における自給率は、他の先進諸国に比べると極めて低く、その背景には、農業従業者数の減少、耕地面積の縮小、国民の食生活の変容、保存技術の進歩、輸送手段の多様化、安価な人件費を利用した日本企業の海外進出による農作物の海外輸入など多くの要因が関係している。また、世界的な規模でこれらの問題を見つめた時、我が国の自給率の低さからは考えられないほどの食品ロスがあることを知る日本人は少ない。一番の問題は、我が国が現在抱えている食料問題の事実を知り、現状を意識して生活している人がほとんどいないということにある。

本単元では、世界的視野での日本が抱える食料問題と消費者ニーズの関係を知り、子ども達に一番身近な給食を例に探ることで、空間軸・時間軸双方でのこれからの食料生産のあり方を考えていくことをねらいとしている。

○ 児童は、これまでの単元「暮らしを支える食料生産」の導入部分において、その日の給食のメニュー名から、その材料や産地について予想をしている。その際、約80%の児童が材料、産地についての知識がなく、日頃から与えられる食べ物に興味すらも抱いていないということが分かった。最後は、「すべて地球のどこかで作られた物なのだから、“地球産”という表示でいい」という意見があった。そこで、「すべて地球産なのに、なぜくわしい産地表示をするのだろうか。」という大問を立て、この大単元を学習してきた。その後の単元「米づくりのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」では、具体的な事例を通して、我が国や我が県、市、区の食料生産の様子や特色を学習してきた。児童は、これらの学習を通して、今まで見えなかった国民の食生活を支えている人々の工夫や努力、生産地されてから消費地に運ばれるまでの食料生産における“人々のつながり”を感じ始めている。

○ 単元の導入部では、世界的視野で食料生産の現状を理解する。カロリーベースの計算だと地球の人口約71億人全員が十分に食べていくことのできる食料があるにもかかわらず、飢餓で苦しむ人が約8億人もいるということを資料から読み取り、これからの食料生産はどうあればいいのかという学習問題を引き出していく。

学習の展開部では、日本をクローズアップし、食料生産における問題点とその背景を探っていく。その中でも、自給率の低下と食品ロスの二つについて大きく取り上げる。それらの背景を探っていく中で、消費者のニーズに応じた食料生産がなされていること、一人一人の消費者の行動が最終的には世界の食料生産にも大きく影響を与えていることを確かめていく。また、その都度、これらの食料問題に取り組む消費者の一人として、給食を考える栄養教諭の取組や思いを知ることで、問題を児童の身近なものとして捉えさせ、考えを深める一助とする。

学習の終結部では、これまでの学習を振り返り、世界の中の一人の消費者として、これからの食料生産のあり方について自分なりに考えたことをまとめ、相互に交流していく。また、校内に発信していく活動を通して、自分たちの身近な問題として捉え、まとめていく。

6 単元の目標

- 日本の食料生産にかかわる問題点について、進んで自分なりに考えをもとうとする。
- 食料生産がかかえる問題点を日本の農業の実態や環境への影響、国際協調の観点からとらえ、どうすればよいのか自分なりの考えをもつ。
- 食料生産の問題点を既習の資料と関連づけて読み取ったり、調べたりする。
- 我が国の食料生産には、食料自給率の低下や安全性の問題、環境保全など、様々な課題があることがわかる。

7 単元の評価規準 (●:食育の評価)

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
① これまでの学習をもとに食料生産の問題点に関心をもち、意欲的に調べている。 ② これからの食料生産について消費者としての行動を考えようとしている。 ● 食材選びや食べ方などこれからの生活に自分ができることについて考えることができる。 (食品を選択する能力)	① これからの食料生産について問題意識をもち、学習の見通しをもって追究・解決している。 ② 食料生産がかかえる問題をどうすればよいのか、日本の農業の実態や環境への影響、国際協調の観点から自分なりに考えを表現している。 ● 給食の残食状況から食料問題について自分の食生活に置き換えて考えることができる。 (社会性)	① 食料生産の問題点やその背景について、必要な情報を集め、読み取っている。 ② 調べたこと、分かったことや、自分の思いを、自分なりの方法で適切にまとめている。	① 食料生産における問題を空間的視野、時間的視野で考えていく必要があることを理解している。 ② これからの食料生産は、食品の安全性と環境保全に配慮することが大切であることがわかる。 ● 給食の地産地消の取組から国産や地域の産物のよさがわかる。 (食文化)

8 単元の食育の視点

- 地域の産物のよさを理解し、日常の食事と関連づけて考えることができる。 (食文化)
- 自分たちの食生活を振り返り、環境や資源に配慮した食生活を実践しようとする。 (社会性)
- 正しい知識や情報に基づいて、食品の品質および安全性などについて自ら判断できる能力を身につける。
 (食品を選択する能力)

9 学習指導計画(全8時間)

過程	ねらい	主な学習活動と内容	■教師の働きかけ □評価 ☆資料
社会 認 識 を 育	食料生産の問題点に関心をもつことができる。	① 世界の人口と、飢餓の人口から、食料生産の問題点を考える。 地球産の物は足りているはずなのに、なぜ飢餓が起こるのだろうか。	■ 世界規模での食料生産の現状を提示することによって、国差があるに気

<p>て る 場</p>			<p>付くことができるようにする。</p> <p>☆ グラフ</p> <p>☆ 飢餓地域を示した地図</p> <p>□ 関①:ワークシート</p> <p>□ 技①:ワークシート</p>
<p>ふ か め る</p>	<p>我が国日本の食料生産の問題に気づき、それに対する予想を考え、調べることができる。</p> <hr/> <p>我が国の食料生産の問題を空間的視野・時間的視野で考えることができる。</p> <hr/> <p>我が国の食料生産の問題を空間的視野・時間的視野で考えることができる。</p>	<p>② 日本の食料自給率のグラフから、学習問題をつくり、予想して調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 食料自給率の低下の原因は何なのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の食生活の変化 ・輸入の拡大 ・耕作面積の縮小 ・後継者問題 <p>③ 調べたことを発表し、話し合う。</p> <p>④ 食料自給率の低下から考えられる、日本の食料生産の問題点を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 地産地消には、どのようなよさがあるのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・旬と食文化への理解 ・環境保全 ・地域の活性化 ・フードマイレージ ・持続不可能な生産 <p>⑤ 食品ロスから考えられる、日本の食料生産の問題点を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 飢餓に苦しむ人が8億人もいるのに、なぜ日本はこんなに食べ物を捨てているのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・食べきれない ・ぜいたく ・消費者のニーズ ・安全、安心なものづくり 	<p>■ これまでの学習をもとに予想することによって、根拠をもって調べることができるようにする。</p> <p>□ 思①:ワークシート</p> <p>□ 思②:ワークシート</p> <p>□ 知①:ワークシート</p> <p>■ 食品のルートやつながりを明確にしていく中で、消費者のニーズに応じた生産、運輸、販売がなされていることに気付くことができるようにする。</p> <p>■ 給食の食材選びの工夫や地産地消の取組から、日本の食料生産の問題と向き合う三上先生の存在を知ること、より身近な問題解決の方法を考える一助とする。</p> <p>□ 思②:ワークシート</p> <p>□ 知②:ワークシート</p> <p>□ 知●:ワークシート</p> <p>■ 給食の食品ロスをなくす工夫や残食を減らす取組から、日本の食料生産の問題と向き合う三上先生の存在を知ること、より身近な問題解決の方法を考える一助とする。</p> <p>□ 思②:ワークシート</p> <p>□ 知②:ワークシート</p> <p>□ 思●:ワークシート</p>

実践的な力を育てる場	い か す	食料生産を身近なものとして捉えて考えていくことで、そのつながりの一部としての自分にできることが分かる。	⑥⑦⑧ 既習事項を想起しながら、日本の食料生産の問題と、それらを解決していくための方法を考え、発信する。	■ これまでのノートを見返すことで、これまでの既習事項を活かしながら、発信したい内容と根拠が関連したものとなるようにする。
			「このままでいいの？食料生産！」を発信しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・値段だけではなく、産地を見て選んで買おう。 ・本当に必要なものか、買いすぎないようにしよう。 ・食料についての、正しい知識をもとう。 ・給食を残さないように食べよう。 	<input type="checkbox"/> 関②:ワークシート, 発表物 <input type="checkbox"/> 技②:ワークシート, 発表物 <input type="checkbox"/> 知①:ワークシート, 発表物 <input type="checkbox"/> 関●:ワークシート, 発表物

10 本時の目標

- 日常の食事と関連付けて我が国の食料事情を理解し、食材の産地に関心をもつとともに国産や地元産のよさに気付くことができる。

11 本時の食育の視点

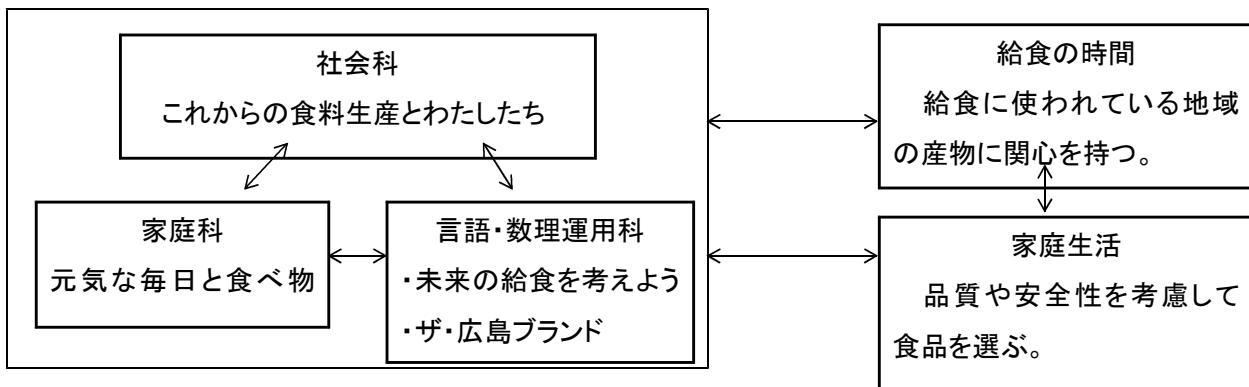
- 地域の産物のよさを理解し、日常の食事と関連づけて考えることができる。 (食文化)

12 本時の学習展開

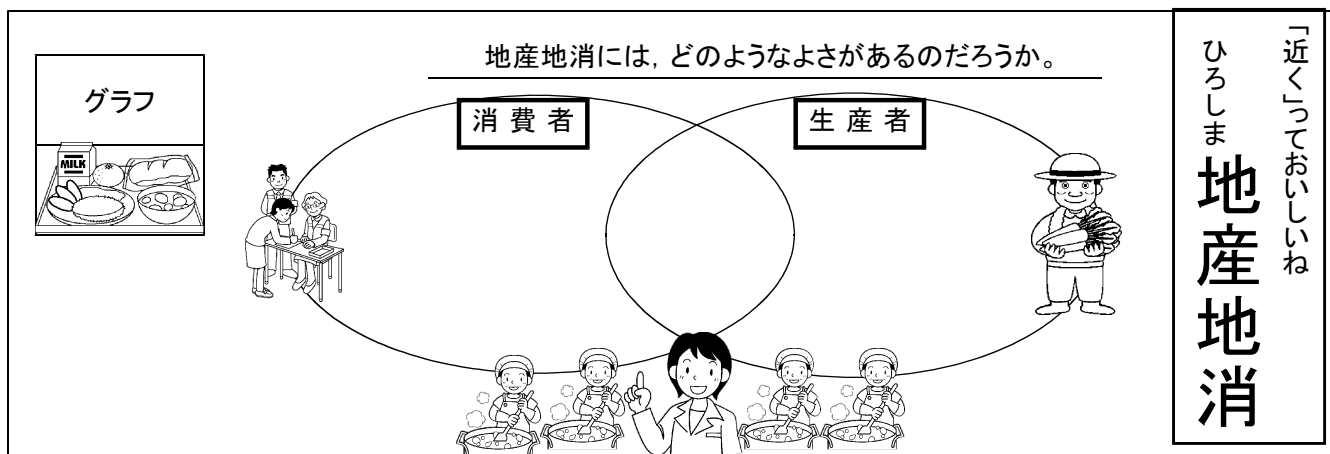
学習活動	子どもが思考するための手立て	予想される子どもの反応	評価 ☆資料・準備物
1 比較から、学習問題を設定する。	○ 都道府県別の食料自給率と牛田小の給食の中の地場産物の使用率を比べることで、学習問題に迫ることができるようにする。(T1, T2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島県は、中国地方の中で、一番都道府県別の自給率が低い。 ○ 日本の自給率 40 %も低いと思ったけれど、広島県はさらに低い。 ○ 牛田小の給食はさすがだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆グラフ ☆給食の写真 ☆PP①②③ ☆PP④⑤⑥⑦
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>(日本や広島県の自給率は低いのに、なぜ牛田小学校は地場産物をこんなにたくさん使って給食を作っているのだろうか。)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>地産地消には、どのようなよさがあるのだろうか。</p> </div>			
2 学習問題に対する予想を行い、話し合う。	○ 東区の地産地消の取組を知らせ、写真を提示することによって、そのよさを既習事項と結び付けて推測することができる	○ 地産地消をすると、輸入をしなくていいので、二酸化炭素の排出量も減り、環境にもやさしい。	<ul style="list-style-type: none"> ☆PP⑧⑨ ☆消費者の写真

	<p>ようにする。(T2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生産者が分かるので、安心して新鮮なものを食べることができる。 ○ 農家の方がもうかるので、やる気になる。 	
<p>3 消費者だけではなく、生産者にとってのよさを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 構造的な板書をするによって、消費者と生産者の双方の立場にとってのよさに気付くことができる。(T1) ○ 牛田小に給食の野菜を届けてくださっている方のコメントを聞くことで、生産者にとっての地産地消の価値に気付くことができるようにする。(T1, T2) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 消費者にとっていいことがたくさんある。 ○ 環境のことなど、結局はみんなにとっていいこともある。 ○ 生産者にとってのよさは、これだけかな。 ○ 消費者からの声や笑顔が聞けるからうれしいんだ。 ○ 野菜を大切にしているからこそ、新鮮なうちに食べてもらいたいんだ。 ○ 野菜のおいしい季節などを知ってほしいんだ。 	<p>☆PP⑩⑪ ☆生産者の写真</p> <p>☆PP⑫⑬ ☆DVD</p>
<p>4 地産地消に取り組んでいる牛田小の給食室の思いを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地産地消が、自分たちの身近な所で行われていることを知ることによって、本時の学習をより身近な事柄として自覚できるようにする。(T2) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三上先生や給食の先生はいろいろなことを知り、意識しておられるからこそ、牛田小はたくさん地場産物の食品を使っていたんだ。 ○ 消費者のニーズに応じて生産者の方ががんばってくださいのなら、今の自分にもできることがある。三上先生はもう、実行している。さすがだな。 	<p>☆PP⑭⑮</p>
<p>5 感想を書き、交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地産地消のよさを多面的に考えることによって、消費者の一人として、自分にできることがあるということを自覚できるようにする。(T1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地産地消は、消費者・生産者、地球で暮らすみんなにとってのよさがある。 ○ 日本の食料問題を知り、地産地消に取り組んでいる牛田小学校の給食室の先生方はすごい。 ○ 自分は消費者の一人なので、自分にもできることがある。食品を選ぶことをしていきたいと思う。 	<p>[思②・知②・知●] 現在の食料生産の問題点に気づき、自らの生活と結び付けて、自分にできることを考えようとしている。</p>

13 他教科や学校給食との連携



14 板書



15 評価基準

A	<p>○地産地消には、生産者側と消費者側双方にいいところがあることを知り、それらを給食の食材選びと結び付けて考えることができている。さらに、自分自身の消費者としての食材選びへの意欲を示している。</p> <p>→地産地消には、生産者側の利益や意欲の向上につながることで、消費者側は安全で安心な物を食べられるというよさ、両方にとってよさがあるということが分かりました。給食でも、それらを生かして食材選びをしてくださっていました。私は、これまでそんなことをまったく考えたことがなく、買い物に行っても、ただ安いものを買うだけだったので、これからは消費者として、食品をしっかりと選びたいと思いました。</p>
B	<p>○地産地消には、生産者側と消費者側双方にいいところがあることを知り、それらを給食の食材選びと結び付けて考えることができている。</p> <p>→地産地消には、生産者側の利益や意欲の向上につながることで、消費者側は安全で安心な物を食べられるというよさがありました。給食では、三上先生がそのことを知っていて、生産者の思いを私たちに届け、安心安全なものを食べてもらおうと工夫してくださっていることが初めて分かり、感謝しないといけないと思いました。</p>
C	<p>○地産地消には、生産者側と消費者側、どちらにとってもいいところがあるということに気付いている。</p> <p>○地産地消のよさを、生産者側、もしくは消費者側のどちらか一方の立場のよさでしか考えられていない。</p> <p>→地産地消には、生産者の人はもうかるし、消費者の人は新鮮な物を安心して食べられるというよさがありました。</p> <p>→地産地消には、新鮮なものを食べられるというよさがありました。</p>

名 前【 】

--

--

☆☆ 感想 ☆☆
